

平成22年度

味覚と文芸

阪神間に位置する大手前大学。その豊かな歴史や文化に囲まれていることに特に着目して、阪神間の文化や風土に関する学びを基本コンセプトに、公開講座「阪神文化へのいざない ～学んで体感・阪神間～」を今年度から複数年にわたり開設いたします。

シリーズ第1弾となる平成22年度の総合テーマは「味覚と文芸」です。それらを通じて感じられるもの、見えてくるものをご一緒に考えてまいりましょう。なお、講座は4つの章立てからなり、いずれも講義形式と見学または体験学習のような参加型ワークショップの計2回の構成となっております。これも初めての試みとして受講生の皆様には大いに楽しんでいただけるものと思います。どうぞ奮ってご参加ください。

4/17・5/15

第1章 スイーツ学（製菓学）と神戸

大手前製菓学院 教授 松井博司

最近、「スイーツ」という言葉が氾濫しています。単なるお菓子を示すだけでなく、生活用品やデザイン、さらには「楽しさ」までも表現し始めています。勿論スイーツ学（製菓学）は、お菓子そのものを学ぶことではありますが、その領域は益々広がりをみせています。現在のお菓子の分野を分析し、その役割と効用についても考察します。そして、神戸がとりわけ洋菓子の発祥の地であることから、洋菓子文化の発展を調べると共に、地域とお菓子の繋がりについても考えます。

第2回目は、洋菓子の美味しさと、作る楽しさを学ぶための講習です。普段何気なく食べて美味しいと感じるケーキも、その「しくみ」を知ることで、さらに美味しく又、深い興味が湧いてきます。「お菓子は科学である」ことを体験できます。そして、作りたての洋菓子を賞味することで、さらにお菓子作りに興味を持つことでしょう。（要：実習費 500円）

6/19・7/17

第2章 灘酒の伝統文化と蔵元の暮らし

白鷹株式会社 取締役副社長 辰馬朱満子
大手前大学 教授 仲野好重

古くから日本酒の主産地として名高い「灘」が、なぜ天下一の酒どころと成りえたのか。灘特有の酒質を生んだ要因とあわせ、阪神間の地場産業として栄えた酒造りの歴史と、そこに醸成された文化について考えます。また蔵元5代目として、酒造りを支えてきたかつての蔵元の暮らしについても、関西の商家の生活と文化的嗜好という観点からお話し、地域文化の応援者としての役割を果たしてきた酒造り酒屋の伝統についても考えます

第2回目は、かつての酒造り酒屋の商家建築を再現した「白鷹祿水苑」で、江戸時代末から昭和初期にいたる蔵元四世代の生活用品を再現展示した「暮らしの展示室」を見学。また、大手前大学現代社会学部教授の仲野好重氏との対談を行います。（要：交通費）

9/18・10/9

第3章 阪神間の文学と芸能

— 『細雪』から村上春樹まで —

大手前大学非常勤講師
文化プロデューサー 河内厚郎

西宮芦屋を中心とする阪神間は、戦前には谷崎潤一郎や薄田泣菫らが居を構え、野間宏・遠藤周作・野坂昭如・小松左京・須賀敦子らが育ちました。戦後は井上靖の小説に頻りに登場し、現在では宮本輝らが阪神間を舞台とした作品を発表しています。近年は村上春樹の故郷としても認識されるようになりました。今も多くの文学者が在住です。こうした阪神文学の系譜をたどり、阪神間の人文的風土の特質を読み解いてみましょう。

第2回目は、史跡等を訪ねます。阪急「芦屋駅」北側にある「細雪文学碑」からスタートし、芦屋川沿いに南下して、虚子三代句碑→芦屋仏教会館→業平橋→虚子記念文学館→鶴塚橋→芦屋市谷崎潤一郎記念館→小出権重アトリエ→富田砕花旧居と回ります。（要：交通費・入館料）

11/20・12/18

第4章 村上春樹の世界

大手前大学 准教授 平川大作 /
教授 小林宣之 / 講師 酒井健

～声と音楽と映像による逍遥～

第1回目は、村上春樹について考える準備として、その諸作品から数篇をとりあげ、声・音楽・映像により立体的に鑑賞します。村上春樹の大きな魅力をなす文体のリズムを体感しましょう。

～世界文学への旅立ち～

現在、活躍の場を文字通り「世界」にまで広げている村上春樹は、大学入学までの多感な成長期を阪神間ですごしました。阪神間という原風景から世界文学の広がりへ、村上春樹の文学はどのような旅路を描いたのか。この講義では、体験実習でとりあげた作品を軸にすえて、その文学の魅力を論じます。